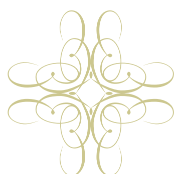
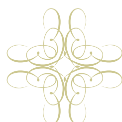
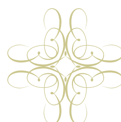
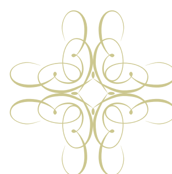
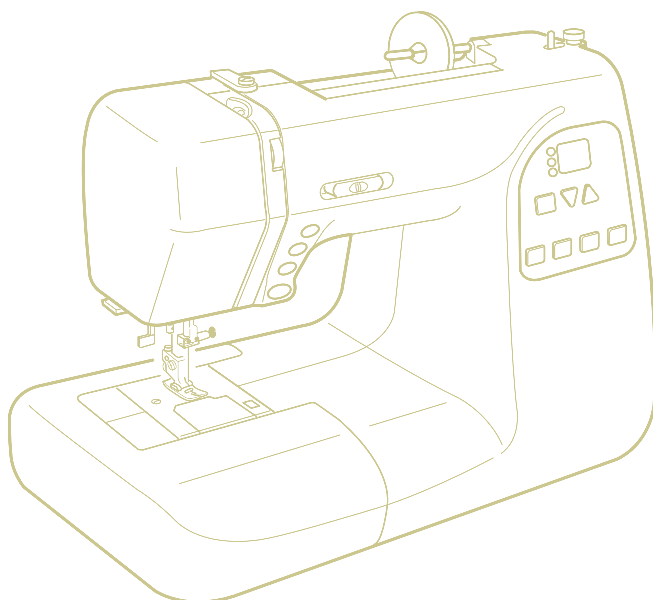
ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠ 警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
🛇	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
●	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行　一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	必ずプラグを抜く　以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止　お客様自身での分解はしないでください。	必ず実行　針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。
接触禁止　ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	必ず実行　以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
禁止　ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	必ず実行　電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
禁止　曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。	必ずプラグを抜く　以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
禁止　フットコントローラーの上に物をのせないでください。	必ずプラグを抜く　ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
禁止　プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。	
注意　お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。	
必ず実行　ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。	

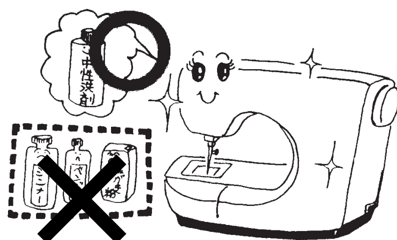
目　次

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

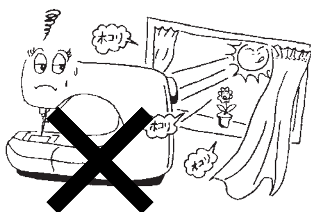


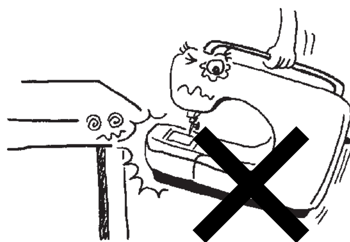
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

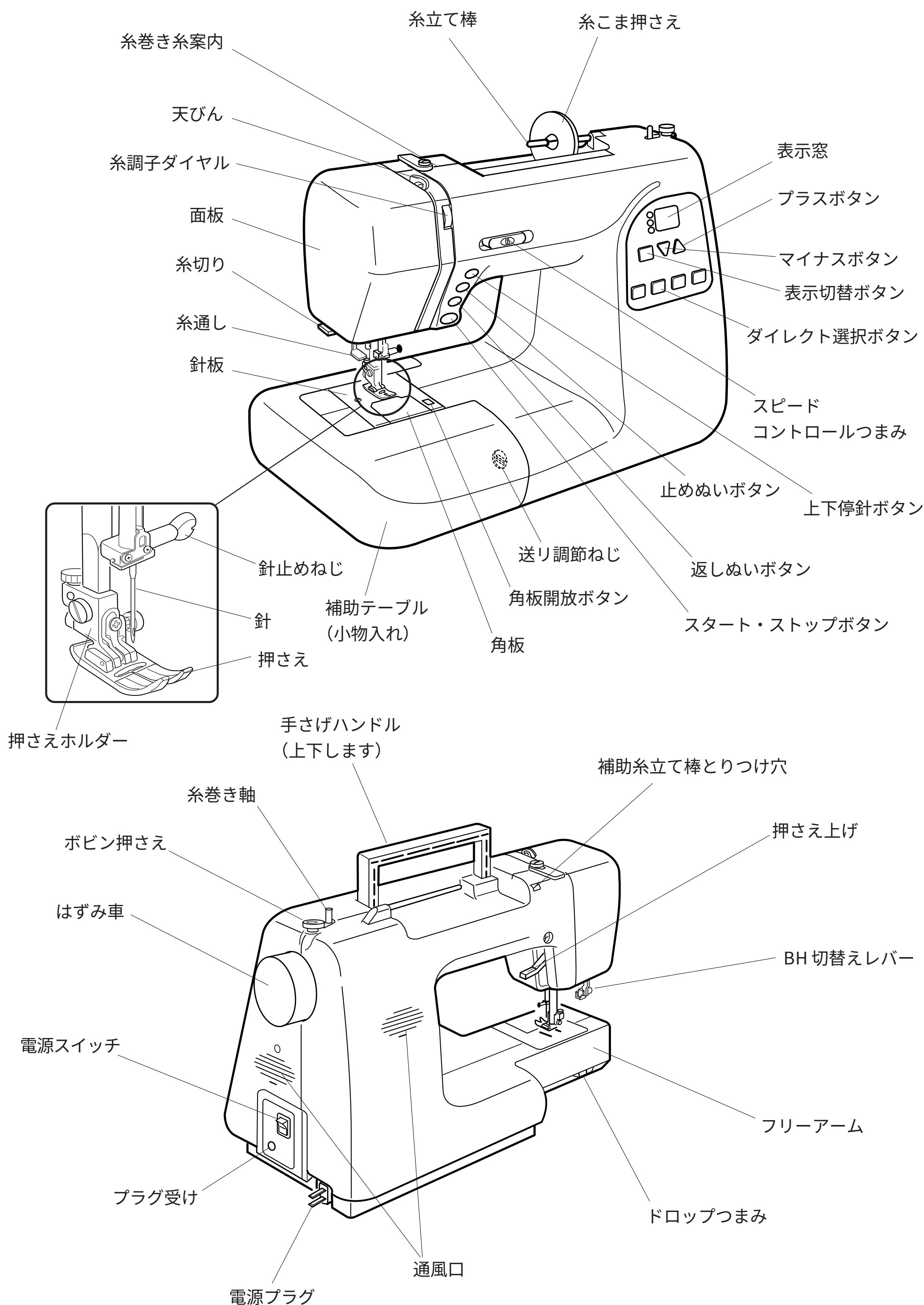




◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（43 ページ）により点検・調整を行ってください。

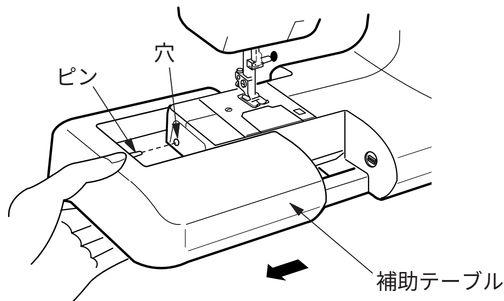
●各部のなまえ



糸立て棒
糸こま押さえ
糸巻き糸案内
天びん
表示窓
糸調子ダイヤル
プラスボタン
面板
マイナスボタン
糸切り
表示切替ボタン
糸通し
ダイレクト選択ボタン
針板
スピード
コントロールつまみ
止めぬいボタン
上下停針ボタン
針止めねじ
送り調節ねじ
返しぬいボタン
針
補助テーブル
(小物入れ)
角板開放ボタン
スタート・ストップボタン
押さえ
角板
押さえホルダー
手さげハンドル
(上下します)
補助糸立て棒とりつけ穴
糸巻き軸
押さえ上げ
ボビン押さえ
はずみ車
BH 切替えレバー
電源スイッチ
フリーアーム
プラグ受け
ドロップつまみ
通風口
電源プラグ

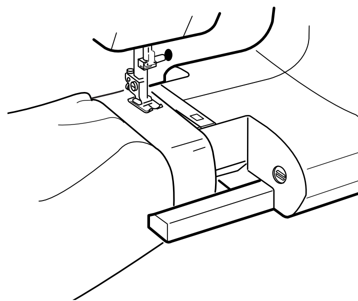
●補助テーブルの使い方

【補助テーブルのはずし方】
補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いてはずします。

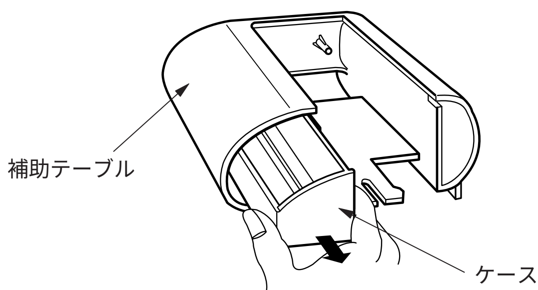


※補助テーブルを取付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、とりつけます。

【フリーアームの使い方】
そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

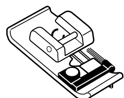


●標準付属品と収納場所

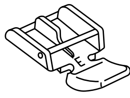


ケースを取り出し、押さえ等の小物を収納します。

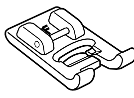
C:裁ち目かがり押さえ



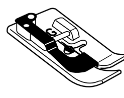
E:ファスナー押さえ



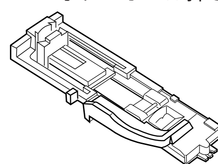
F:サテン押さえ



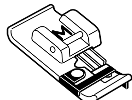
G:くけぬい押さえ



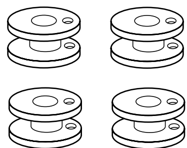
R:オートマチック
ボタンホール押さえ



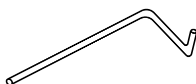
M:かがり押さえ



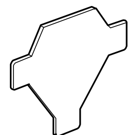
ボビン



キルター



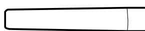
ねじまわし



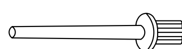
ミシンブラシ



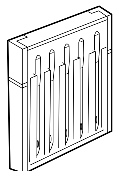
目ほどき



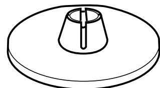
補助糸立て棒



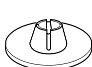
針と針ケース



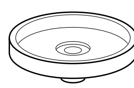
糸こま押さえ（大）



糸こま押さえ（小）



糸こま受け台



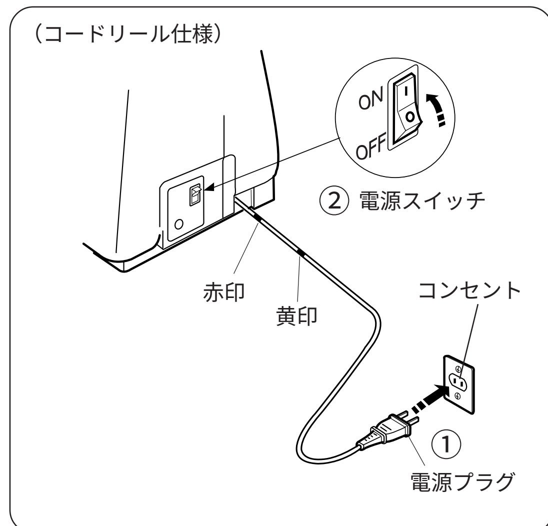
フエルト



※糸こま押さえ（大）はミシンの糸立て棒についています。

●電源のつなぎ方

★スタート・ストップボタンを使用する場合

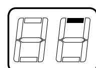


①電源スイッチを「OFF」（切）にして、電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。

②スイッチを「ON」（入）にします。

【電源投入時】 1秒間ミシンの設定を行い、直線模様＃０１を表示します。

表示窓

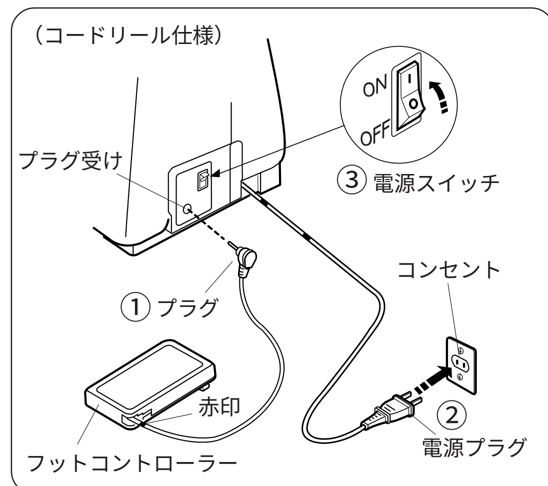




初期画面表示がおわったら、ミシンの準備が完了です。

※コードは赤印以上は引き出さないでください。
※電源は一般家庭用（100V　50/60Hz）です。
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

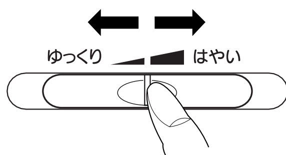
★フットコントローラーを使用する場合（※フットコントローラーは、モデルにより別売りになります。）



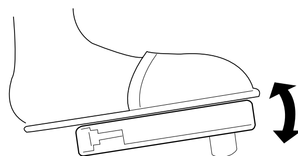
①電源スイッチを「OFF」（切）にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。
③スイッチを「ON」（入）にします。

※フットコントローラーを使用する場合はスタート・ストップボタンは作動しません。
※コードは赤印以上は引き出さないでください。

●速さの調節のし方（ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。）

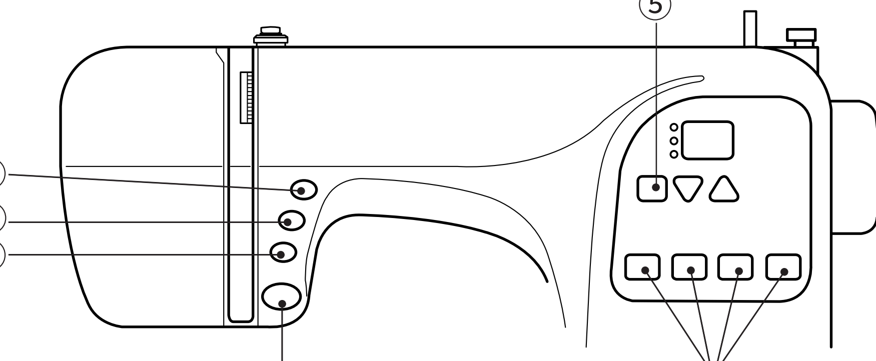


ぬう速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



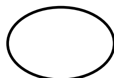
フットコントローラは、深くふみ込むほど速くなります。
※スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●操作ボタンの主なはたらき



①スタート・ストップボタン

スタート/ストップ

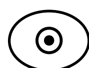


ボタンを押すと､ゆっくり動きだしスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。
※ボタンを押しつづけると、ゆっくり回転します。
※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、はずしてください。
※スタート・ストップボタンを押したとき、dn 表示されたときは、押さえ上げをさげてからスタート・ストップボタンを押してください。

②返しぬいボタン

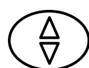
【運転中の返しぬい】
模様 01 02 08 09 は､ボタンを押している間は返しぬいをします。
その他の模様のときには､すぐに止めぬいをして自動的に止まります。
【停止中の返しぬい】（スタート・ストップボタン使用時のみ）
模様＃０１、０２、０８、０９は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと止まります。

③止めぬいボタン



模様 01 02 08 09 で､ボタンを押すと数針止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様ぬいのとき、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
※ぬう前にボタンを押しておくと､模様を1つぬって自動的に止まります。

④上下停針ボタン

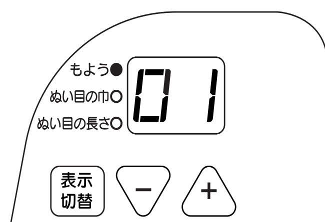


ミシンが止まっているとき､ボタンを押すと針が上位置から下位置に切りかわります。もう一度押すと、上位置に切りかわります。
※下位置に切りかえた状態でぬうと､ミシンを止めたとき針は下位置で止まります。

⑤表示切替ボタン

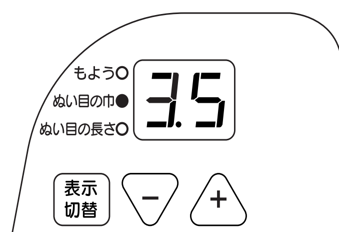
ボタンを押す毎に、「もよう」、「ぬい目の巾」、「ぬい目の長さ」を選択します。

（1）もよう表示



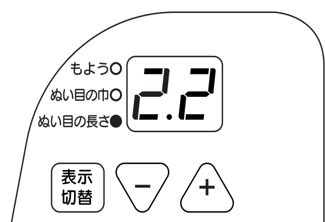
(1)もよう表示 ……….. − + ボタンで模様番号を選びます。
ぬい中は選べません。

（2）ぬい目の巾表示



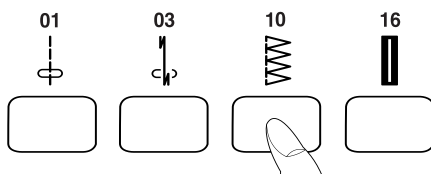
(2)ぬい目の巾表示 .. − + ボタンでぬい目の巾がかえられます。
ぬい中でもかえられます。

（3）ぬい目の長さ表示



(3)ぬい目の長さ表示 ... − + ボタンでぬい目の長さがかえられます。
ぬい中でもかえられます。

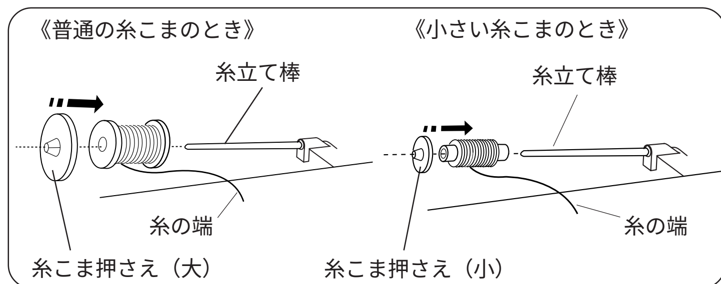
⑥ダイレクト選択ボタン



ボタンを押すと直接模様が選べます。
表示窓に選んだ模様が表示されます。

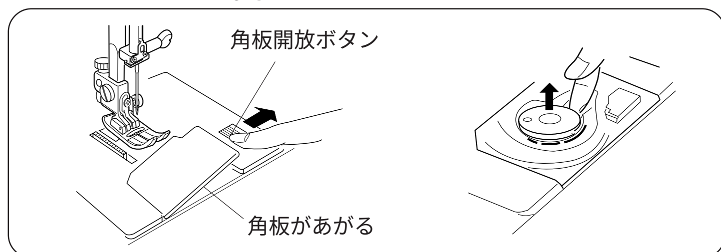
●下糸の準備をしましょう

★糸こまをセットします



糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

★ボビンをとり出します



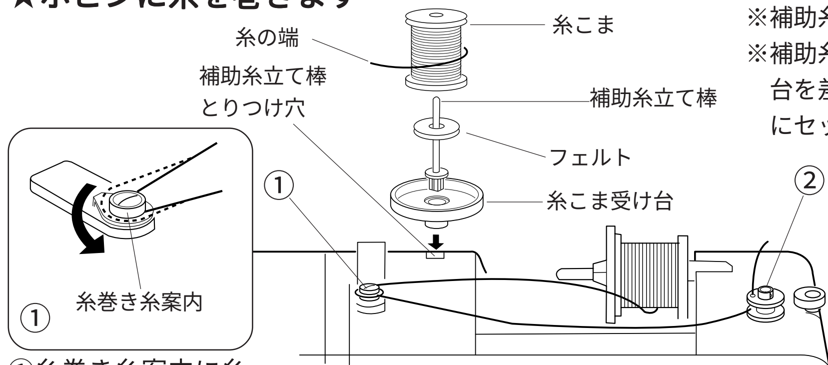
角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンをとり出します。

※ボビンは、必ず専用ボビンをご使用ください。他の製品を使用すると、けが、または故障の原因になります。

★ボビンに糸を巻きます

※補助糸立て棒の利用もできます。

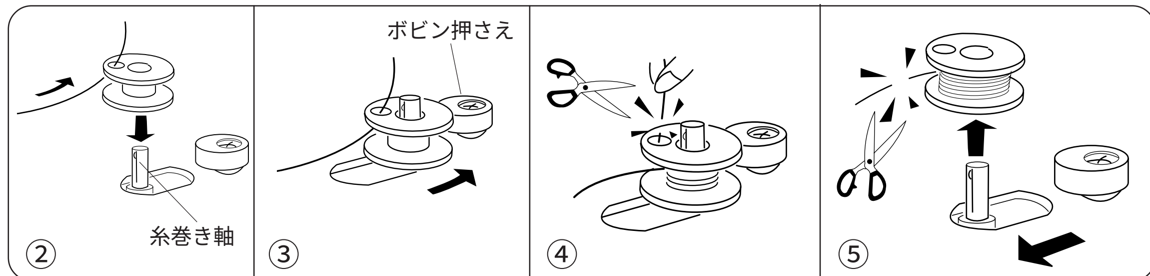
※補助糸立て棒は、下側に糸こま受け台を差し込んだ状態で、取り付け穴にセットします。



①糸巻き糸案内に糸を掛けます。

※補助糸立て棒を利用のときは糸の端は、手前側から出るようにします。

※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」にセットしてご使用ください。



②ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

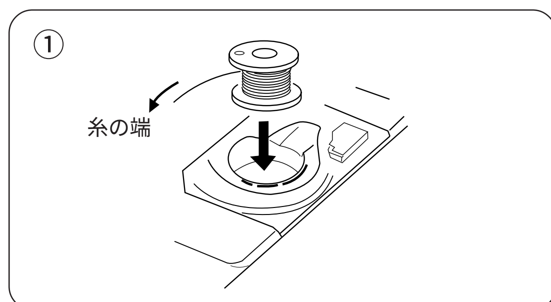
③ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。
SP と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

④糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

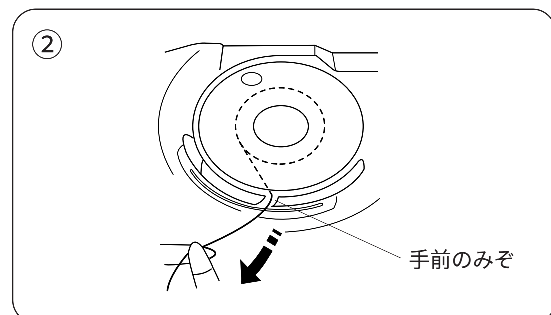
⑤ふたたびスタートして、巻きおわるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めて、糸巻き軸を戻し、糸巻き軸よりボビンを外し、糸を切ります。

※巻きおわった後、ミシンを止めなっか場合には安全の為、ミシンモータは２分間で自動停止します。

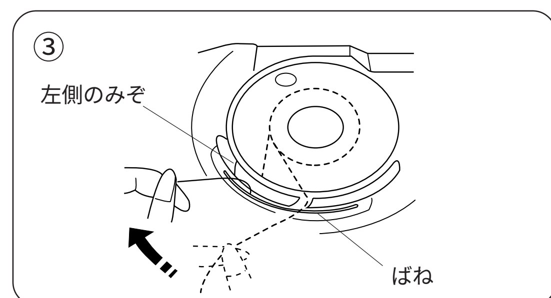
★ボビンをかまにセットします



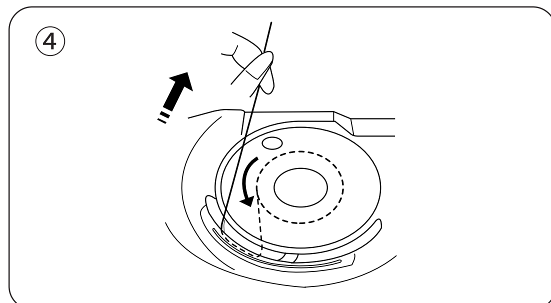
①糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら、手前のみぞに掛けます。

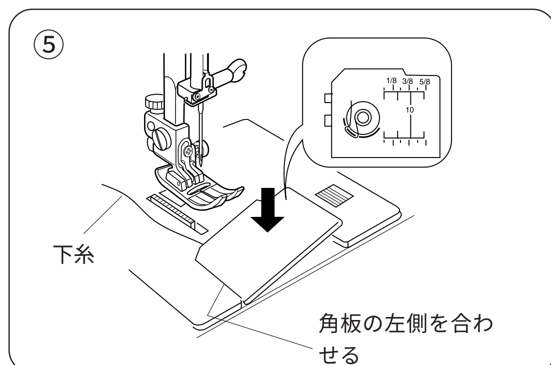


③糸を引きながら、左へ移動させ、みぞの外側とばねの間を通して、左側のみぞのところに出します。



④糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出します。

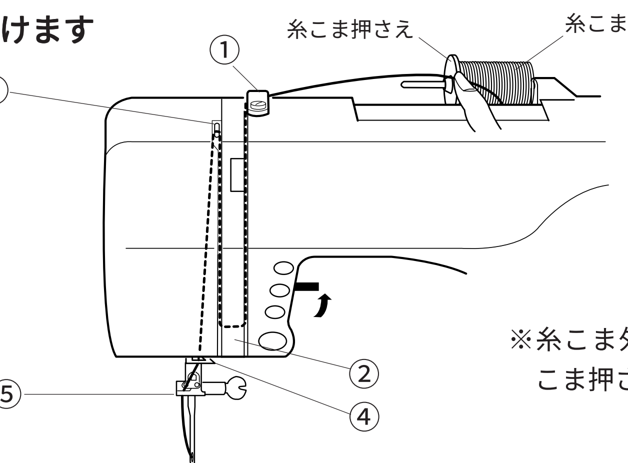
※糸を引き出したとき、ボビンは、反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



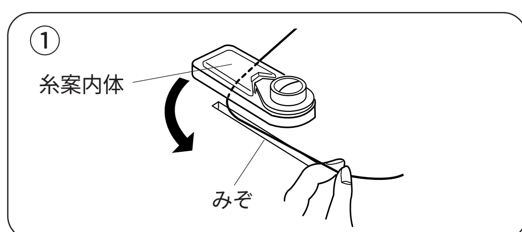
⑤下糸は１０ cm くらい引き出して、角板を左側から合わせてつけます。

●上糸の準備をしましょう

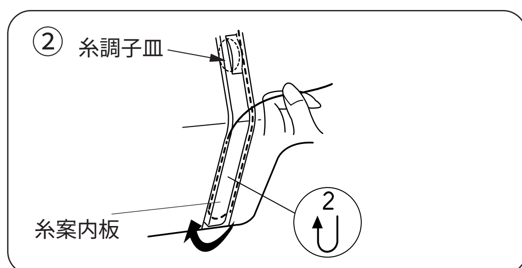
★上糸を掛けます



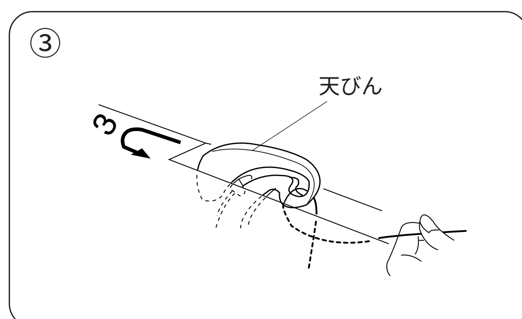
※糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。



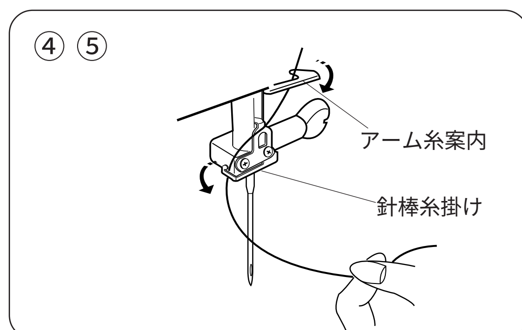
①押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出し、糸こまを軽く押えながら糸案内体の下に巻きつけるようにして掛け、みぞにそって手前に糸を引き出します。



②糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。
※糸調子皿からはずれていないか確認してください。



③上下停針ボタンを２度押し、天びんを一番上にあげます。糸を天びんに右から後ろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。
※糸が天びんの先端まで入っていることを確認します。

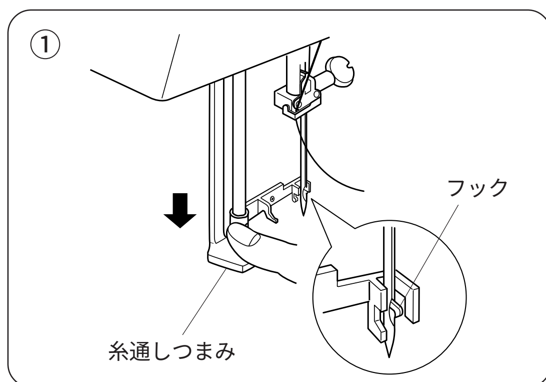


④アーム糸案内に右から掛けます。

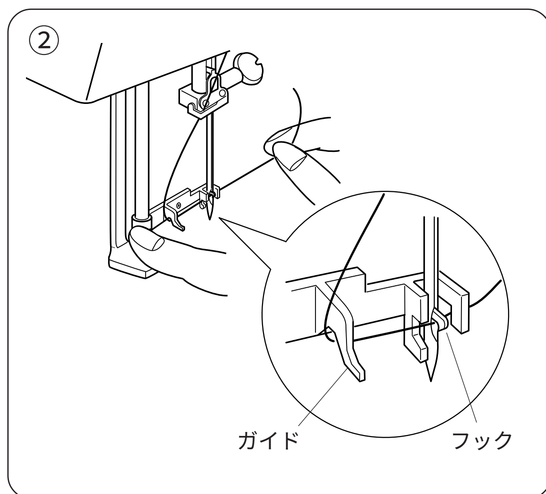
⑤針棒糸掛けに左から掛けます。

※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、11ページをごらんください。

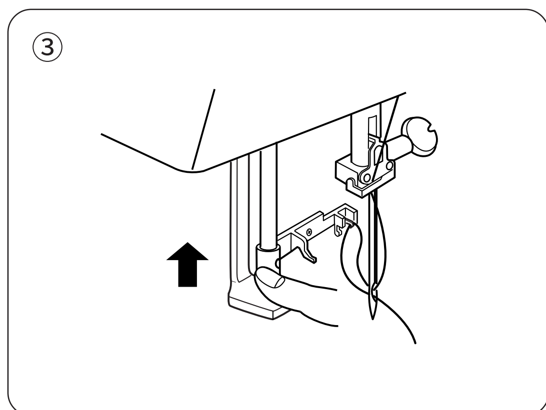
★糸通しの使い方



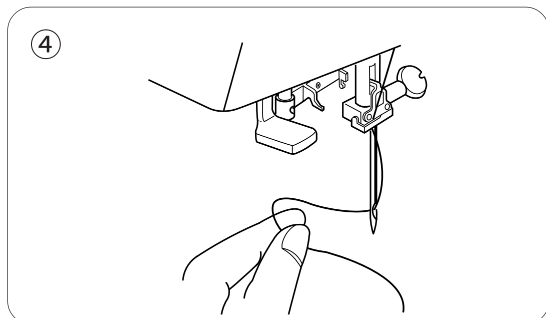
①押さえ上げをあげます。
針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱいに引きさげます。
フックが針穴に入ります。



②糸を左側からガイドとフックに掛けます。
糸がたるまないように、ななめ上に引っ張っておきます。



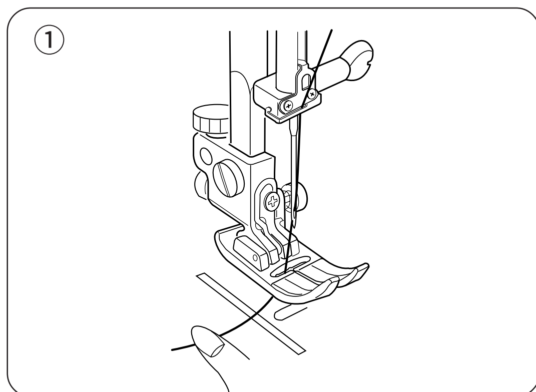
③糸を軽く持ち、糸通しつまみを静かに戻すと、糸の輪が引きあげられます。



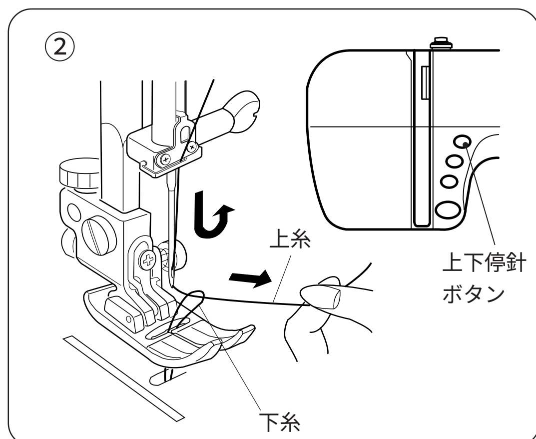
④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

※針は、11番～16番及び、ジャノメブルー針が使えます。
糸は、50番～100番が使えます。

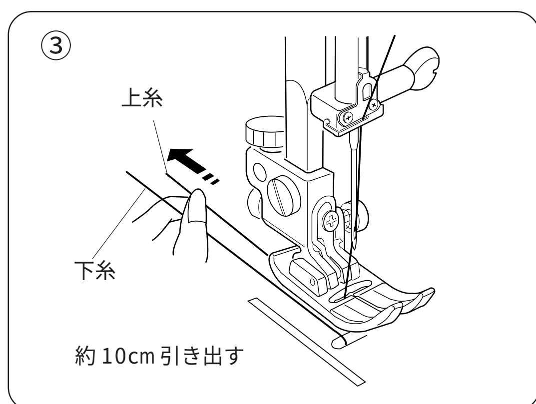
★下糸を引きあげます



①押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

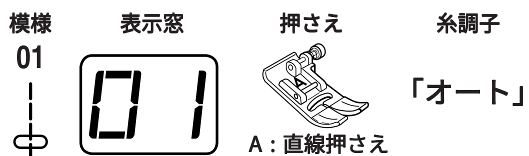


②上下停針ボタンを２度押し、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

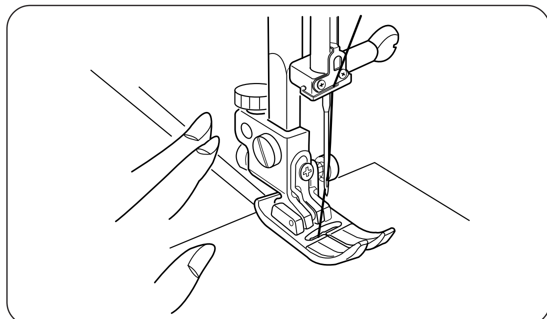


③上糸・下糸を押さえの下にして後ろへそろえて引き出します。

●直線ぬい



★ぬいはじめ

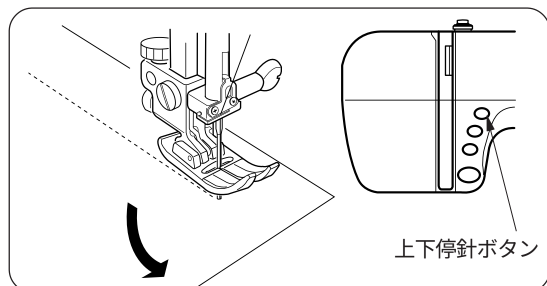


糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。

押さえ上げをさげて、ぬいはじめます。

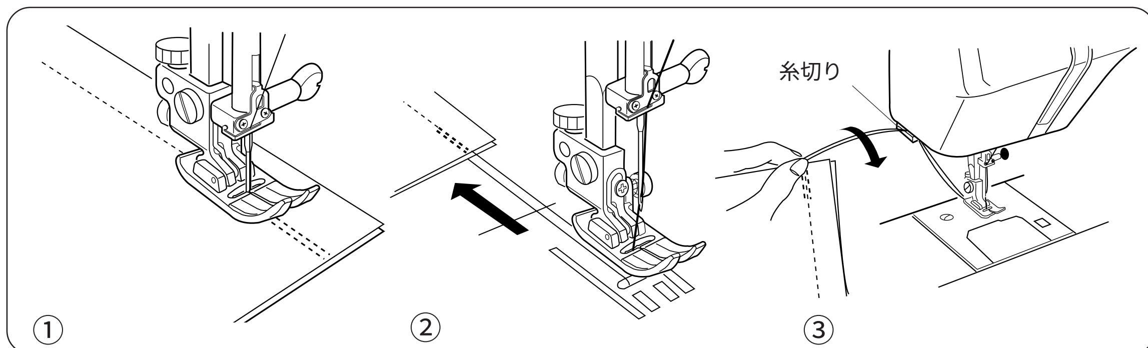
※ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいボタンを押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様＃ 03 を使う方法があります。

★ぬい方向をかえるには



ミシンを止め、上下停針ボタンを押して針を布に刺し、押さえ上げをあげます。
針を布に刺したまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わりの返しぬい



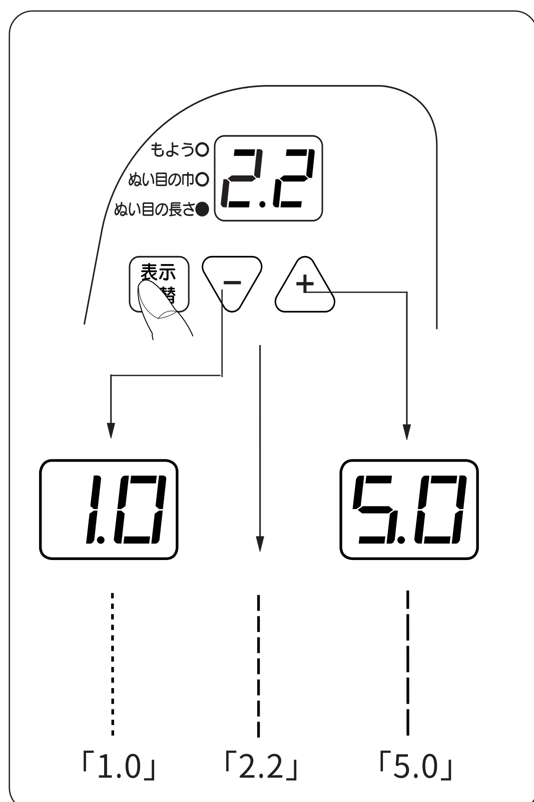
①返しぬいボタンを押しながら数針返しぬいをします。

※模様＃ 03 のときには、返しぬいボタンを 1 度押すだけで、 自動的に返しぬいをします。

②押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

③布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

★ぬい目の長さをかえるとき



表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。

自動セットの数値２．２が表示されます。

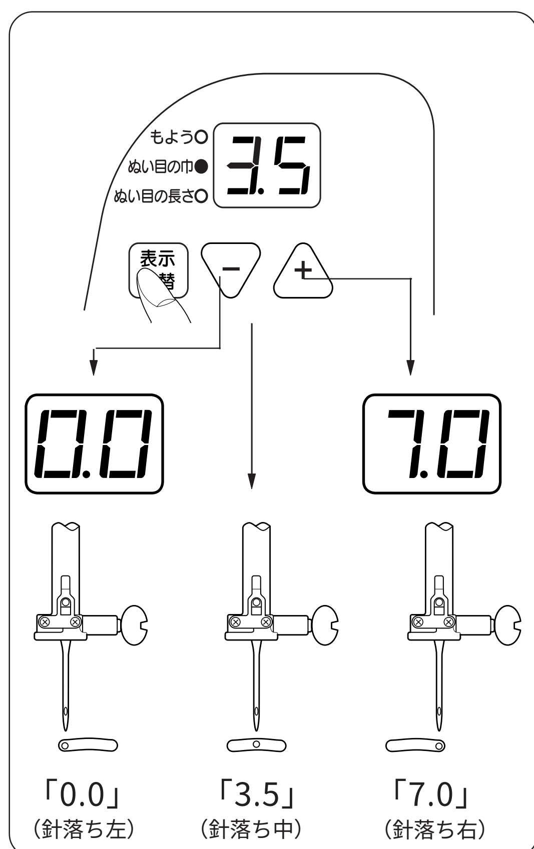
※０．０〜５．０の範囲でかえることができます。
長さの単位は、mm です。

「−」ボタンを押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が短くなります。

「＋」ボタンを押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目が長くなります。

※返しぬいのぬい目の長さは、2.5 以上にはなりません。

★針落ちをかえるとき



※直線状のぬい目、模様 01 02 03 04 05 07 は、針落ち位置をかえることができます。

表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の巾」を選択します。

「＋」、「−」ボタンで針落ち位置をかえます。

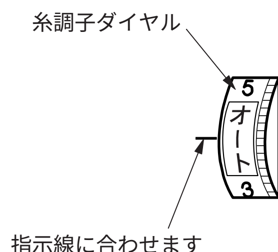
●直線状のぬい目いろいろ

模　様	押さえ	使　い　方
01	A:基本押さえ	地ぬいや、ファスナーつけなどに使います。
03	A:基本押さえ	しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。 (ぬいおわりにきたら、返しぬいボタンを 1 度押します。 　数針返しぬいをしてから自動的に止まります。)
04	A:基本押さえ	目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。 (ぬいおわりにきたら、返しぬいボタンを 1 度押します。 　数針止めぬいをして自動的に止まります。)
05	A:基本押さえ	伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。
06	A:基本押さえ	布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。
07	F:サテン押さえ	飾りぬいや、キルティングなどに利用します。

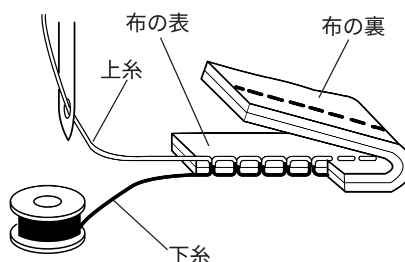
●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「オート」に合わせると、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。



《バランスのとれた糸調子》
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。

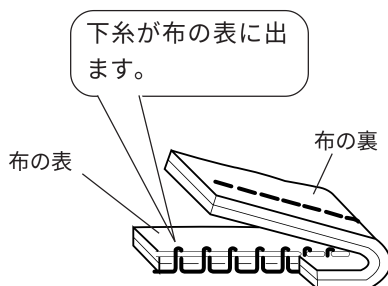


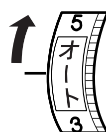
ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

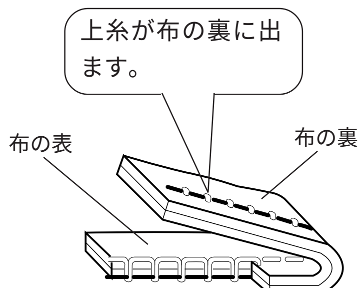
糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルを「0～9」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸の交わる位置を自由に調節できます。

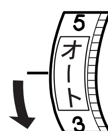
上糸が強すぎるとき・・・糸調子ダイヤルを小さな目盛に合わせます。



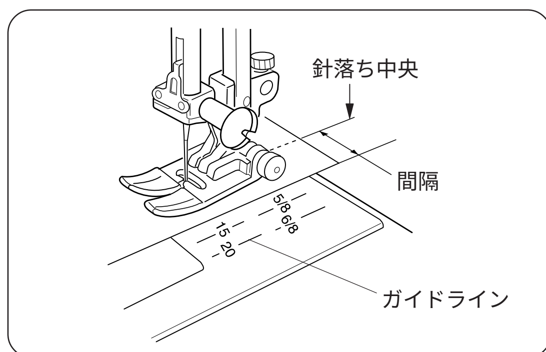


上糸が弱すぎるとき・・・糸調子ダイヤルを大きな目盛に合わせます。





●針板ガイドラインの利用

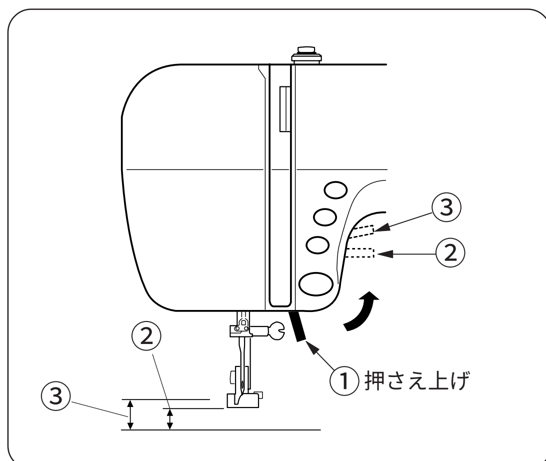


布端を針板ガイドラインに合わせてぬいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間隔 (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※数字は、針落ち中央からガイドラインまでの間隔です。

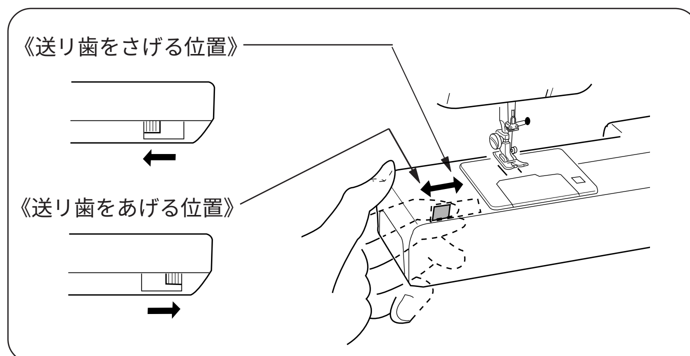
●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押えはさらにあがります。
補助リフトとしてお使いください。

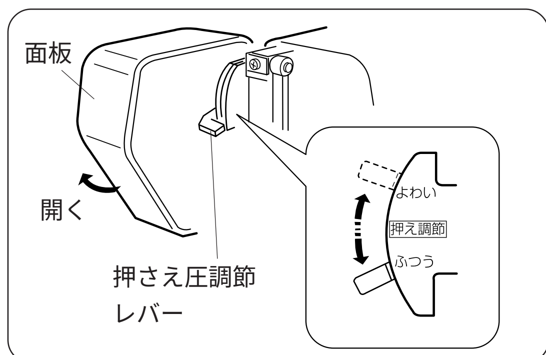
①さげた位置 .... ぬいのときには、さげておきます。
②普通にあげた位置 .. 布のとり出しや、押さえの交換のときにあげます。
③さらにあげた位置 .. 補助リフトで、布が入れやすくなります。

●ドロップつまみの使い方



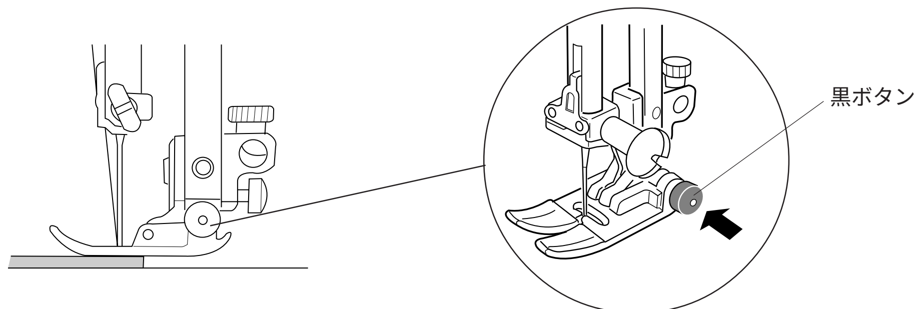
ボタンつけなどのときは、送り歯をさげる位置にセットします。
※終わったら、送り歯をあげる位置に戻しておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的にあがります。

●押さえ圧調節レバーの使い方



普通ぬいのときは、レバーを「ふつう」にします。
うす手の化繊地や伸縮性のある布などでぬいずれがあるとき、またはぬいしろ部分が重なりあうときは、レバーを「よわい」にします。

●厚手の布端のぬいはじめ



①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押しこみます。

②ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。

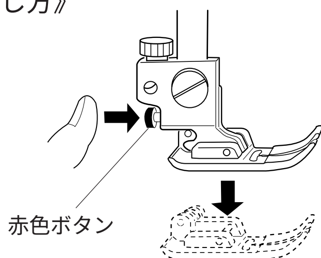
③ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

●押さえのとりかえ方

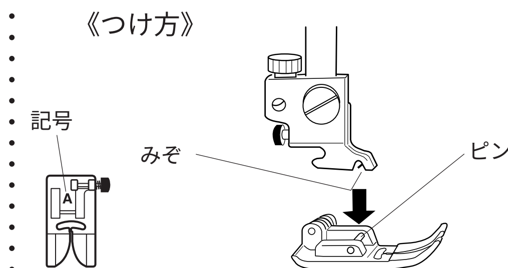


押さえのとりかえは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

《はずし方》



《つけ方》



押さえ上げをあげて、赤色ボタンを押して、押さえをはずします。

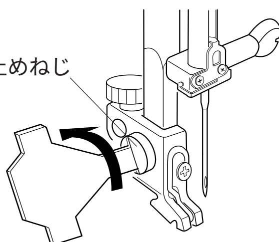
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。
※押さえには、記号が付いていますので模様に合ったものを使用してください。

●押さえホルダーのはずし方、つけ方

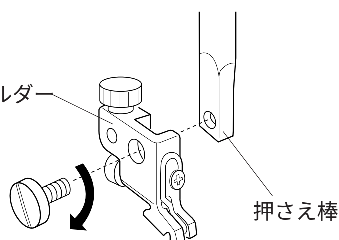


電源スイッチを切ってから行ってください。

《はずし方》



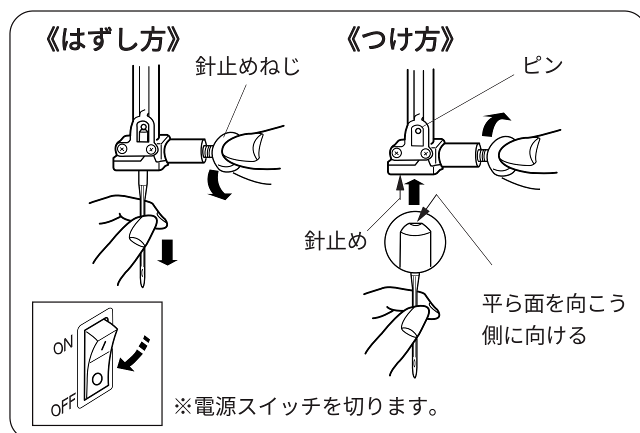
《つけ方》



押さえホルダー止めねじを左に回して、はずします。

押さえホルダー止めねじを右にまわして、つけます。

●針のとりかえ方



⚠ 針のとりかえは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

※針をあげ、押さえ上げをさげます。

【はずし方】

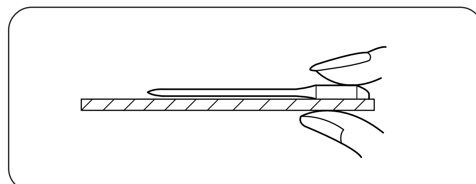
①針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

【つけ方】

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまでさしこみ、針止めねじをかたくしめます。

※正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【針の調べ方】



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは針が折れ危険ですので使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

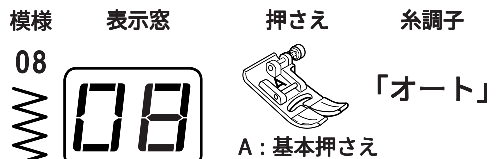
布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

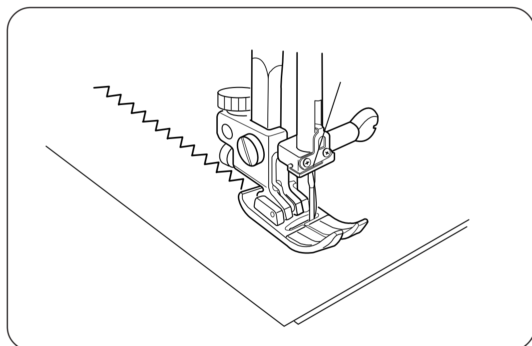
※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。
（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

●ジグザグぬい



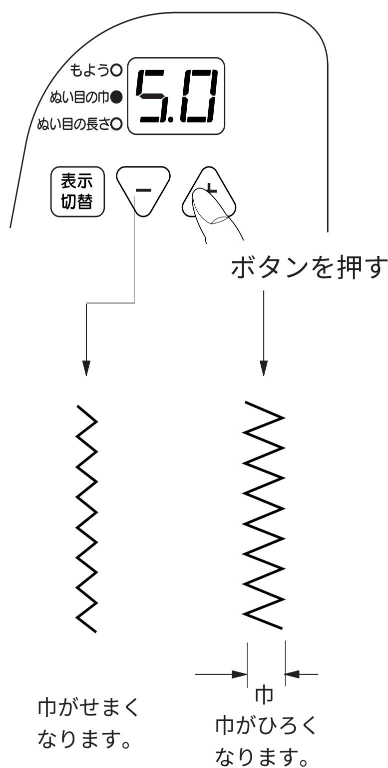


伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の巾・長さをかえるとき

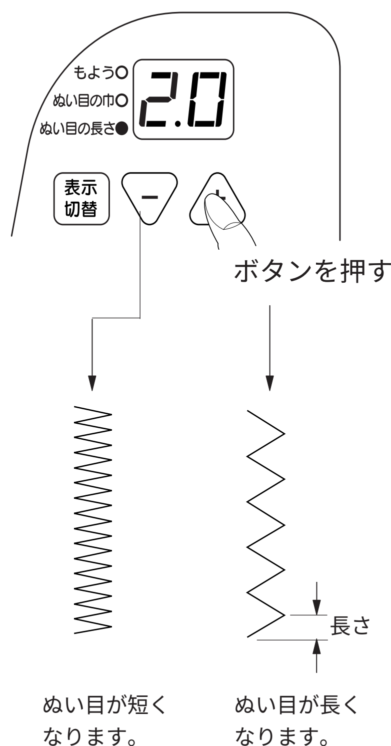
《巾をかえるとき》

表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の巾」を選択します。
（自動セットの数値が表示される。）



《長さをかえるとき》

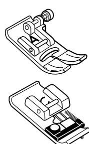
表示切替 ボタンを押して、「ぬい目の長さ」を選択します。
（自動セットの数値が表示される。）



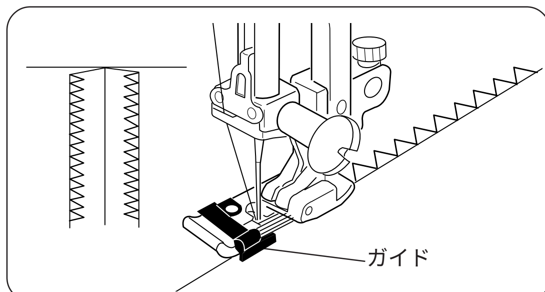
●裁ち目かがり

★ジグザグぬい裁ち目かがり

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
08 		 A：基本押さえ または C：裁ち目かがり押さえ	「オート」

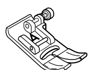
※裁ち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の巾は、５．０～７．０でぬいます。

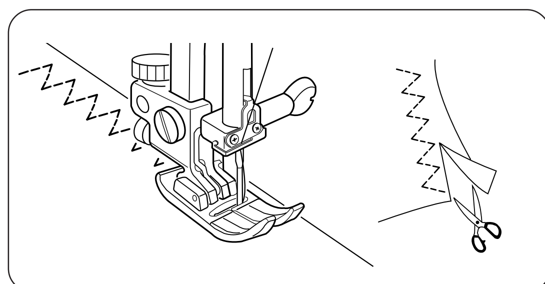


布端を裁ち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

★トリコットぬい裁ち目かがり

《ミシンのセット》

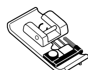
模様	表示窓	押さえ	糸調子
09 		 A：基本押さえ	「オート」

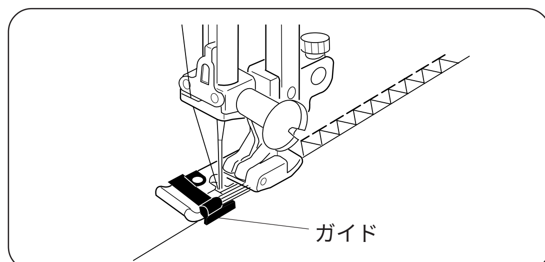


ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

★かがりぬい（１）

《ミシンのセット》

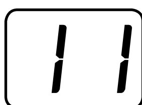
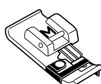
模様	表示窓	押さえ	糸調子
10 		 C：裁ち目かがり押さえ	「オート」

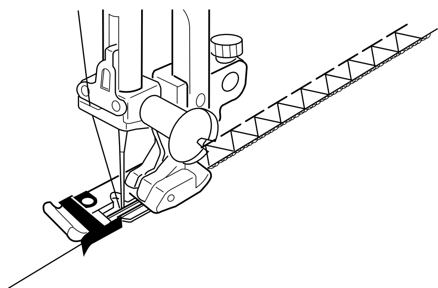


地ぬいをかねたかがりぬいで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。
布端を押さえのガイドにあててぬいます。
※ぬい目の巾は、５．０～７．０でぬいます。

★かがりぬい（2）

《ミシンのセット》

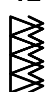
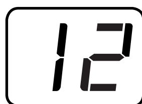
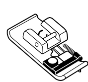
模様	表示窓	押さえ	糸調子
11 		 M：かがりぬい押さえ	「オート」

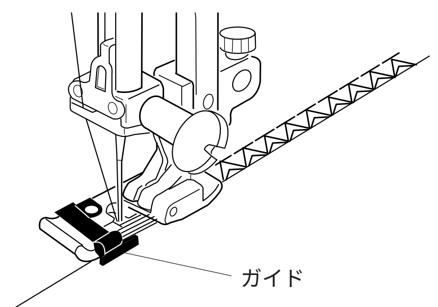


オーバーロックのぬい目に似ていて、布端がほつれやすい布地のかがりぬいに利用します。
布端を押さえのガイドにあててぬいます。
※押さえ外側のピン横で、上糸と下糸がからみあうよう、糸調子ダイヤルで調整します。
※ぬい目の巾は、かえられません。

★かがりぬい（3）

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
12 		 C：裁ち目かがり押さえ	「オート」



中、厚地のしっかりした布端をかがるときに利用します。
布端を押さえのガイドにあててぬいます。
※ぬい目の巾は、５．０～７．０でぬいます。

●ボタンホール

★ボタンホールの種類と用途



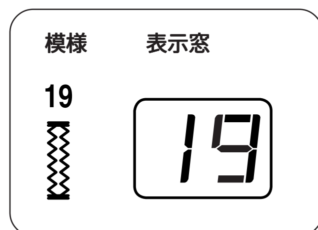
◎スクエアボタンホール（センサーボタンホール）
スクエアボタンホール（両とめ）は、中厚物から厚物まで一般的な使用目的のボタンホールです。センサーボタンホールは、使用されるボタンの大きさに合わせて自動的にボタンホールの大きさを決定して、ぬいあげます。



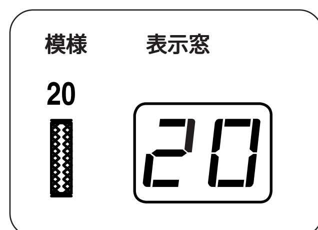
◎両ラウンドボタンホール（センサーボタンホール）
薄物の素材に使います。薄手のブラウスでよく使われます。



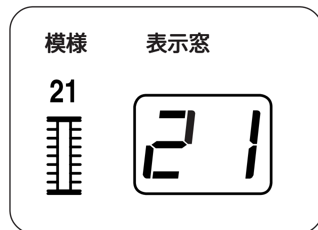
◎ラウンドキーホールボタンホール（センサーボタンホール）
中厚物の素材で厚めのボタンを使用するときに使います。



◎ニットボタンホール（センサーボタンホール）
伸縮性のある布に適したボタンホールです。また、そのぬい目の形から飾りぬいボタンホールとしても使えます。



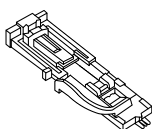
◎ニットボタンホール（センサーボタンホール）
ニットに適したボタンホールです。また、そのぬい目の形から飾りぬいボタンホールとしても使えます。



◎薄地用ボタンホール（センサーボタンホール）
エアールーム模様としてのボタンホールで、手ぬい風の見栄えを与え、飾りぬいボタンホールとして使用されます。

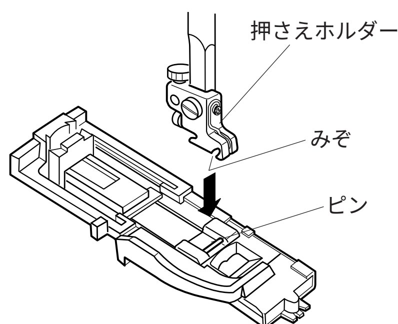
★スクエアボタンホール（ ）のぬい

《ミシンのセット》

模様	表示窓		糸調子
16 		押さえ  R：オートマチック ボタンホール押さえ	「オート」

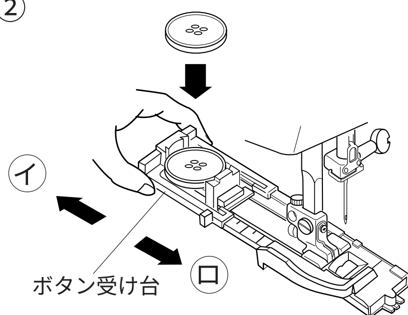
◎ボタンホールの長さは、使用するボタンをオートマチックボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
◎ボタンの直径が１～２．５ cm まで、ボタンホールができます。
◎ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。
◎伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①

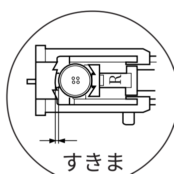


①押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

②

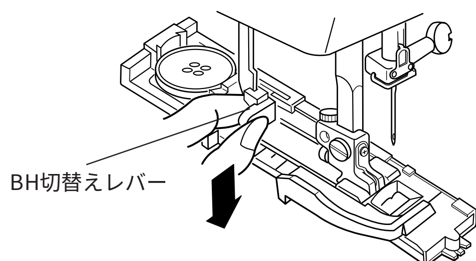


②ボタン受け台をイ方向に引き、ボタンをのせてロ方向に戻しはさみます。

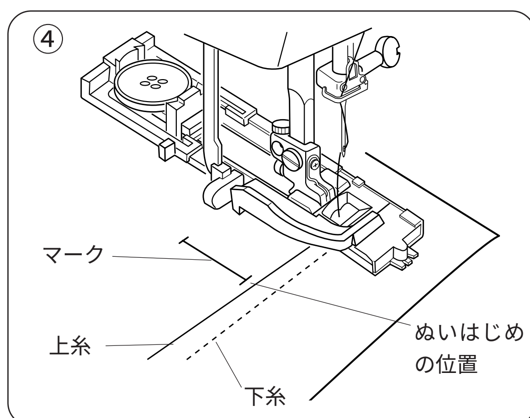


※ボタン受け台のすきまをあけて、位置決めするとその分大きなボタンホールができます。

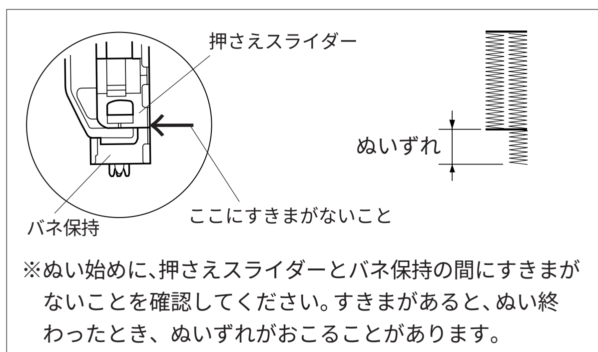
③



③ＢＨ切替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。



④押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬいはじめの位置にはずみ車をまわして針をさし、押さえ上げをさげます。



※ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬい終わったとき、ぬいずれがおこることがあります。

⑤スタート・ストップボタンを押し、ミシンをスタートしてぬいます。

⑤

表示窓		[ぬっていく順序]
第1、2ステップ	L	―― かんぬきと左側のボタンホールをぬいます。（ぬいはじめの位置）
第3ステップ	U	―― 右側のボタンホールをぬいます。
第4ステップ	0	―― かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります。（ぬいおわりの位置）
ぬい終了	16.（ピリオド）	―― 別の場所にボタンホールをぬう場合には、押さえ上げをあげてください。

※ぬっているステップが表示され、点滅します。
※停止中は、上記ぬいステップ表示が、模様番号表示に戻ります。

【ぬい中にこんな表示が出た場合】

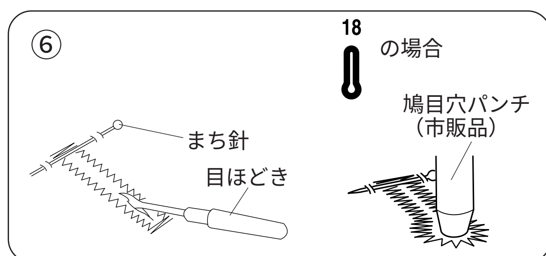


ボタンホール切替えレバーを引きさげないでボタンホールを0.5cmぬうと表示され、ミシンが止まります。ボタンホール切替えレバーをさげて、再スタートします。

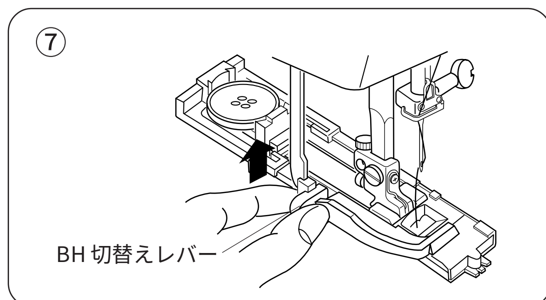
【模様を選ぼうとしてこんな表示が出た場合】



ボタンホールの後に押さえ上げ、または、BH切替えレバーをさげたまま、他の模様を選んだ時に表示されます。
押さえ上げ、または、BH切替えレバーをあげてから、他の模様を選んでください。

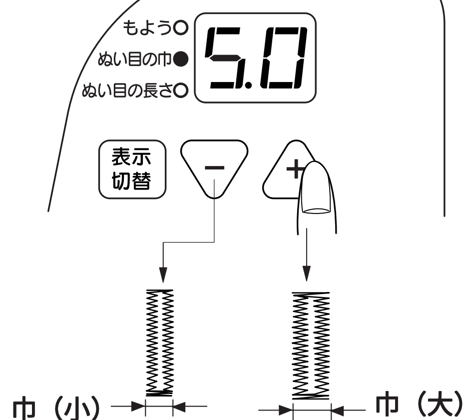


⑥かんぬきの内側にまち針をわたして、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。



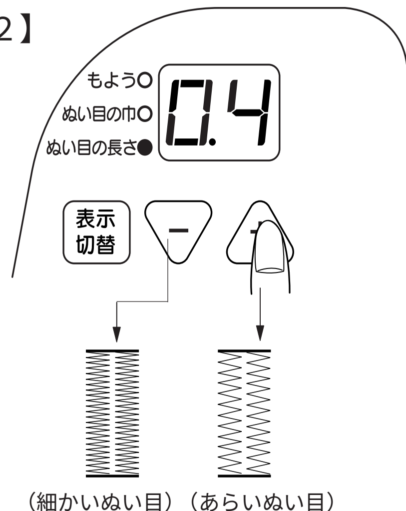
⑦ぬいおわったら BH 切替えレバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

★ぬい目の巾、ぬい目の長さをかえるとき



【1】ぬい目の巾調節

表示切替 ボタンで「ぬい目の巾」を選択します。
自動セットされている数値５．０が表示されます。
ぬい目の巾をかえるには、「＋」、または「－」ボタンを押すと、巾の異なった（２．５～７．０）ボタンホールが選べます。



【2】ぬい目の長さ調節

表示切替 ボタンで「ぬい目の長さ」を選択します。
自動セットされている数値０．４が表示されます。

ぬい目の長さをかえるには、「十」、または、「一」ボタンを押して 0.2 ～ 0.8 の範囲でかえてください。

※マニュアル値を表示した場合は、ぬい中でもマニュアル表示され、ぬいが終了すると 16 表示になります。

★ボタンホール重ねぬい（ボリューム感のあるボタンホールができます。）

［ぬっていく順序］

表示窓		
1度目のぬい終了	16	①１度目のボタンホールをぬいおわったら押さえ上げをさげたまま、スタート・ストップボタンを押すと、自動的に重ねぬいをします。 （１度目のボタンホール手順は24～25ページをごらんください。） ※ピリオドの点滅は、重ねぬいできる状態を示します。
第5ステップ	0	第１ステップぬいはじめ位置まで下ぬいをします。 ②自動的に第１～第４ステップをぬいます。
第1、2ステップ	L	かんぬきと左側のボタンホールを重ねてぬいます。
第3ステップ	U	右側のボタンホールを重ねてぬいます。
第4ステップ	0	かんぬきと止めぬいをして、自動的に止まります。
ぬい終了	16	

★ボタンホール（17 18）のぬい

［ぬっていく順序］

模様 17　表示窓 17

ぬい終わり

ぬいはじめの位置

模様 18　表示窓 18

ぬい終わり

ぬいはじめの位置

※ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。（24から26ページをごらんください。）

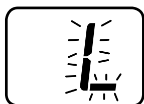
※ぬい目の巾は、模様 17 が（2.5 ～ 5.5）模様 18 が（5.0 ～ 7.0）の間でかえられます。

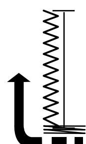
ぬい目の長さは、（0.2 ～ 0.8）の間でかえられます。

★ボタンホール（ 19 21 ）のぬい

[ぬっていく順序]

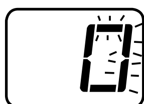
第１
ステップ

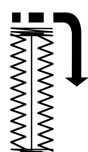




―― かんぬきと左側のボタンホールをぬいます。

第２
ステップ





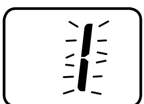
―― かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

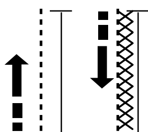
※ぬい目の巾は、（2.5 ～ 7.0）の間でかえられます。
ぬい目の長さは、模様 19 が（0.5 ～ 1.0）模様 21 が（1.0 ～ 2.5）の間でかえられます。

★ボタンホール（ 20 ）のぬい

[ぬっていく順序]

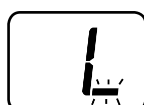
第１
ステップ

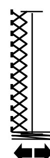




―― 左側のボタンホールをぬいます。

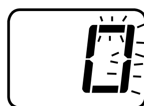
第２
ステップ

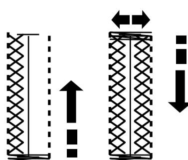




―― かんぬきをぬいます。

第３
ステップ



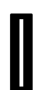
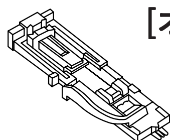


―― かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

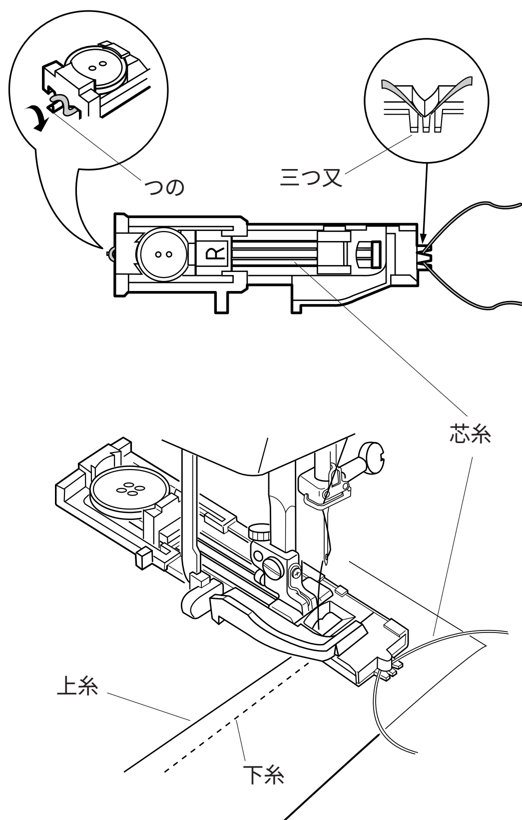
※ぬい目の巾は、（2.5 ～ 7.0）の間でかえられます。
ぬい目の長さは、（0.7 ～ 1.2）の間でかえられます。

●芯入りスクエアボタンホール

《ミシンのセット》

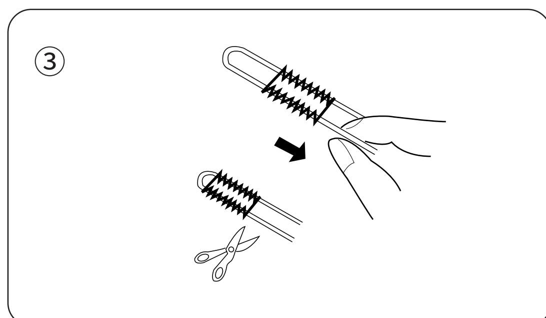
模様	表示窓	押さえ	糸調子
16 		 R：オートマチック ボタンホール押さえ	[オート」

① ②



①芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつのに掛け、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

②スクエアボタンホールのぬい手順と同じようにぬいます。



③左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

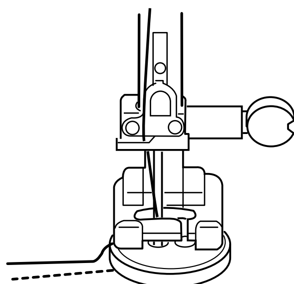
※穴のあけ方は、26 ページをごらんください。

●ボタンつけ



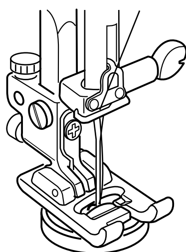
【準備】
(1) 送り歯をさげます。
(2) ぬい目の巾をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。

① ②



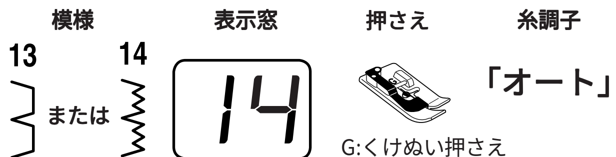
【ぬい】
①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。
②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。

③④⑤

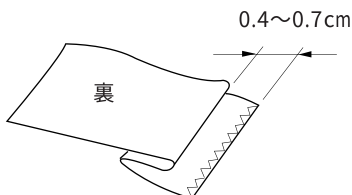


③はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。
④スピードコントロールつまみを「ゆっくり」にセットします。
⑤ 10 針くらいぬったらミシンを止めます。
※ぬいはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。
⑥押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を２０ cm くらい残して切ります。ぬいおわりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
※ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置に戻しておきます。送り歯はミシンが回転すると自動的にあがります。

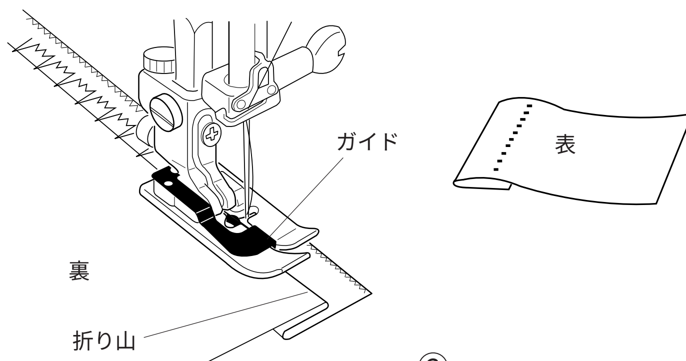
●くけぬい（まつりぬい）



【布の折り方】



【ぬい方】

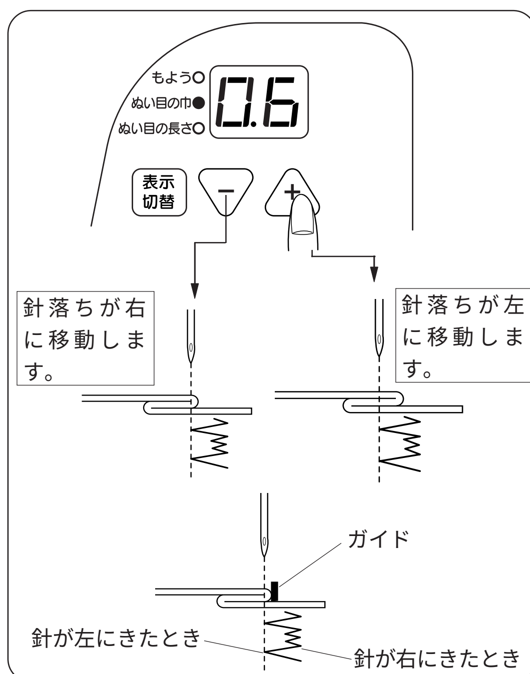


①ガイドに折り山を合わせ、針が折り山からはずれないようにぬい目の巾キーで針落ち位置を調節してぬいます。

②ぬい終わったら布をひろげます。

※左側におりる針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなりきれいに仕上がりませんので注意してください。

【針落ち位置をかえたいとき】



表示切替 ボタンで「ぬい目の巾」を選択します。

自動セットされている数値０．６が表示されます。

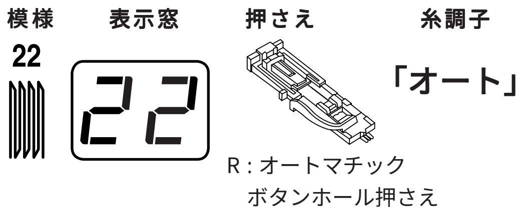
※表示0.6はガイドから針落ちが左にきたときの巾を示します。

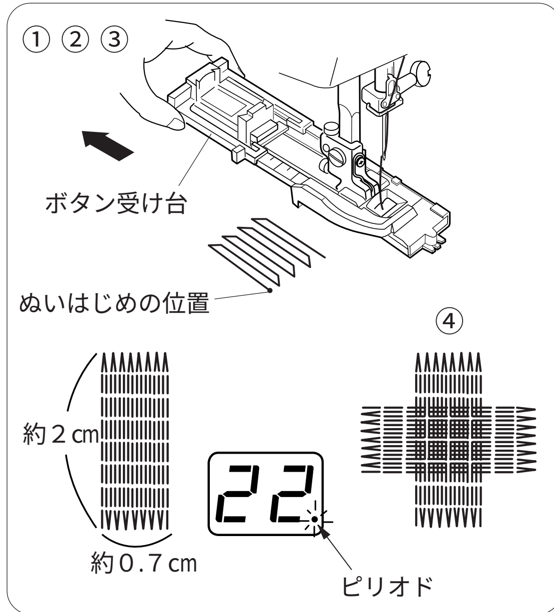
※模様＃１３、＃14は、ぬい目の巾は変化せずガイドからの針落ちがかわります。

針が折り山にかからない場合「＋」ボタンを押して針落ちを左に移動させます。

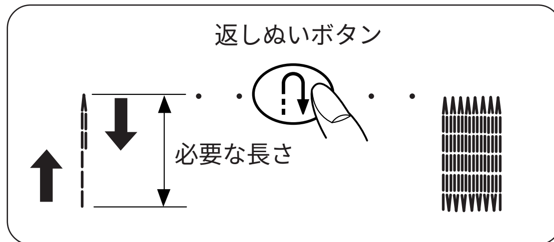
針が折り山にかかりすぎる場合「－」ボタンを押して針落ちを右に移動させます。

●ダーニング（つくろいぬい）



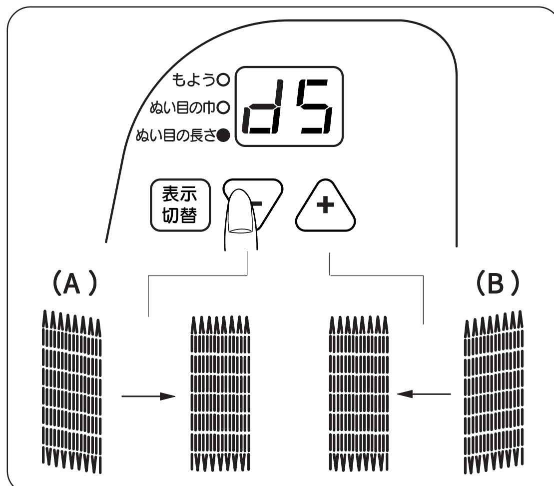


① ボタン受け台を一杯に引き出します。
② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
③ ぬいはじめの位置に針をさし、押さえ上げをさげ自動的に止まるまでぬいます。
※１回のぬいで、最大長さ約２cm、巾約0.7cmまでぬえます。
※ ぬい終わると、ピリオドが点滅します。
くり返し同じ長さのダーニングができます。
他の模様を選ぶときや、ダーニングの長さをかえたいときには、「−」または「＋」ボタンを押して、ピリオドの点滅を消します。
④ 布の向きをかえてくり返しぬいます。



【２cmより短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押して、自動的に止まるまでぬいます。



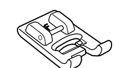
【ダーニングの形の整え方】

ダーニングのぬいはじめ（左側）と、ぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、表示切りかえボタンで「ぬい目の長さ」を選び「−」または「＋」ボタンで調節します。

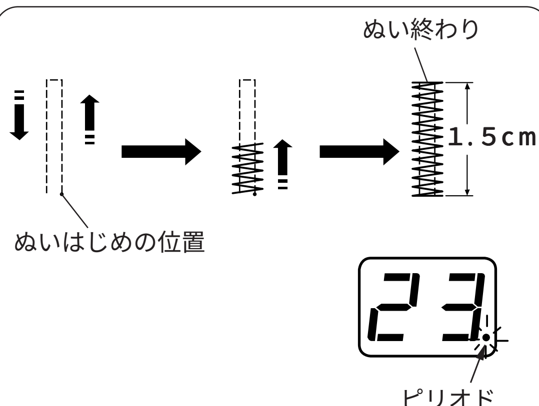
（A）右側が低いとき ..... d1～d4で左右の高さがそろいます。
（B）左側が低いとき ..... d6～d9で左右の高さがそろいます。

●かんぬき止めぬい

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
23 		 F:サテン押さえ	「オート」

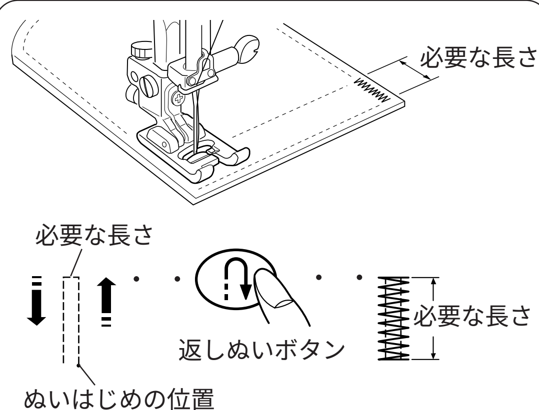
※ぬい目に力がかかって、ほつれやすい部分
　などに使うと、ぬい目がしっかりします。



1回のぬいで、オート値で長さ約1.5cmが自動的にぬえます。

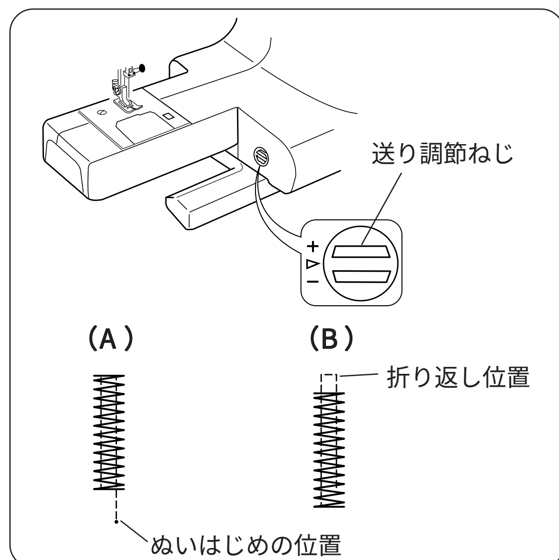
※ ぬい目の巾は（1.0～5.0）、ぬい目の長さは（1.0～2.5）の間でかえられます。

※ ぬい終わると、ピリオドが点滅します。
くり返し同じ長さのかんぬき止めぬいができます。
他の模様を選ぶときや、かんぬき止めの長さをかえたいときには、「ー」または「＋」ボタンを押して、ピリオドの点滅を消します。



【１．５ cmより短い長さでぬう場合】

1.5cmより短い長さでぬうときは、必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押すとその長さが決まります。



【模様位置ずれの整え方】

模様の位置がずれる場合には、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

（A）ぬいはじめの位置が残ってしまうとき
……………送り調節ねじを「＋」方向にまわします。

（B）折り返し位置が残ってしまうとき
……………送り調節ねじを「ー」方向にまわします。

●シェルタック

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
15	15	F:サテン押さえ	「６～８」

※糸調子は、試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

布をバイヤスに二つ折りにします。

針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側にたおします。

●密着模様ぬい

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
24 25 26 27	27	F:サテン押さえ	「オート」

布が縮むときは、下に紙を敷くか、または、接着芯を貼るときれいに仕上がります。

※必要な模様数の最後のぬい途中で、「止めぬいボタン」を押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

●アップリケ

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子	押さえ圧調節レバー
28	28	F:サテン押さえ	「オート」	「よわい」

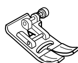
よわい
押え調節
ふつう

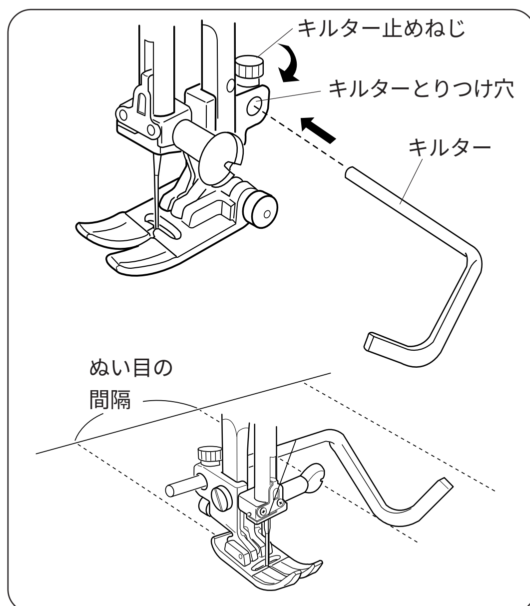
直線三重ぬいのぬう位置はアップリケ布の外側をぬいます。

アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
針がアップリケ布の外側にくるようにしてぬいます。
※急角度のところで向きをかえるときはミシンを止め､針をアップリケ布の外側にさしたままで向きをかえると、きれいに仕上がります。
※ぬい終わったら､押さえ圧調節レバーを｢ふつう｣にもどします。

●キルティング

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
01		 A：基本押さえ	「オート」

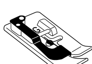


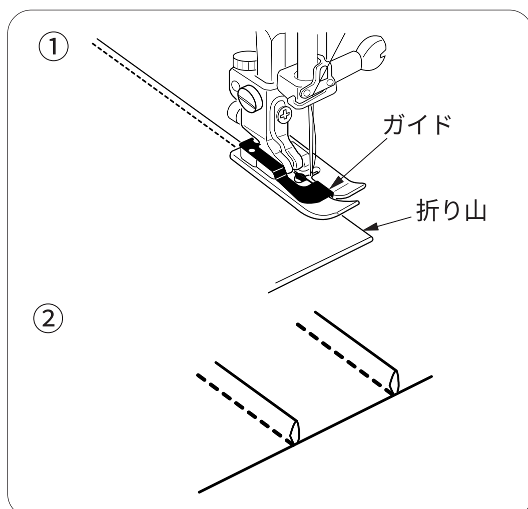
キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、ぬい目の間隔に合わせて、止めねじをしめます。

※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

《ミシンのセット》

模様	表示窓	押さえ	糸調子
02		 G：くけぬい押さえ	「オート」

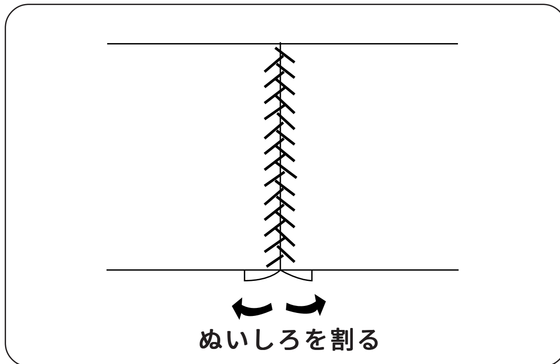


①布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

②ぬいおわったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●パッチワーク

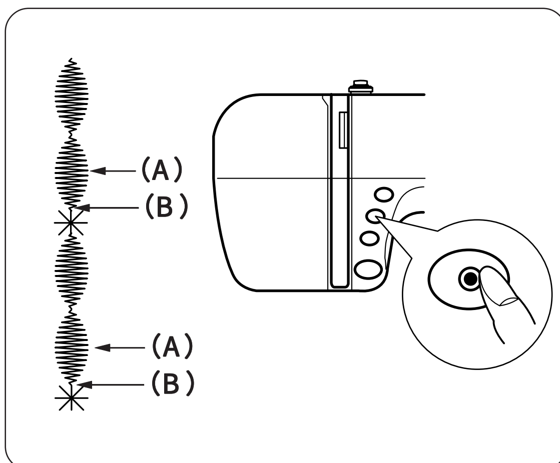




布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。
布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●止めぬいボタンを使った飾りぬい

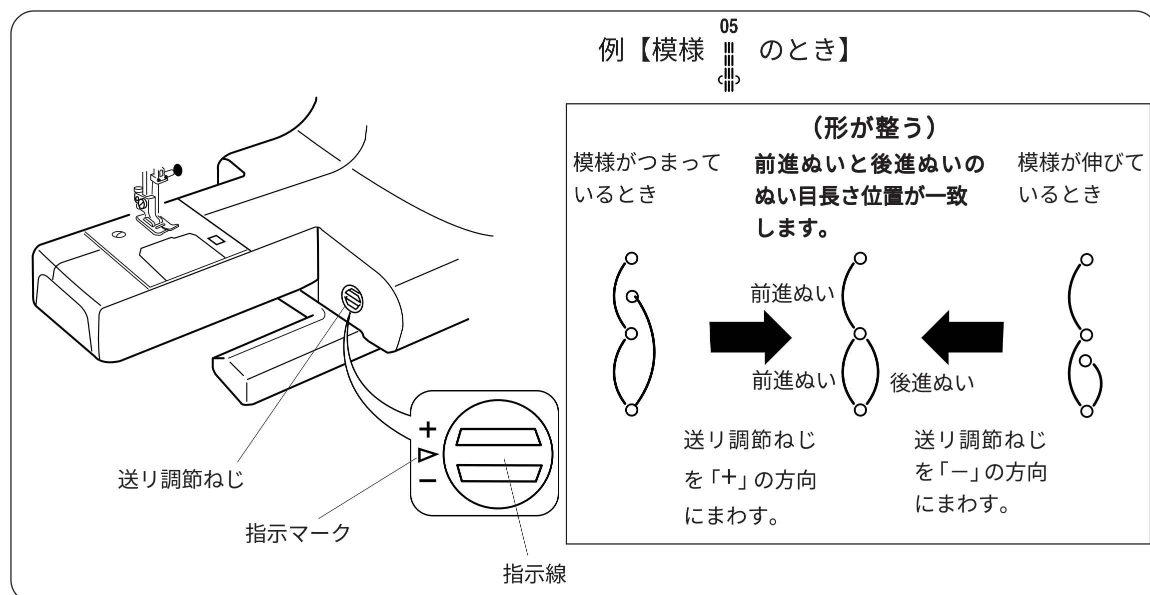




①模様＃25を選び、ぬっている途中（A）で「止めぬい」ボタンを押し、自動的に止まるまでぬいます。
②模様＃30を選びます。
③ぬいの前（B）に「止めぬい」ボタンを押します。
（ぬっている途中でもかまいません。）
④模様＃30を１つぬって、自動的に止まります。
⑤模様＃25を選び、手順１からくりかえします。

●スーパー模様の形の整え方

※スーパー模様は 05 07 10 11 12 23 28 29 30 です。



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送リ調節ねじで調節してください。

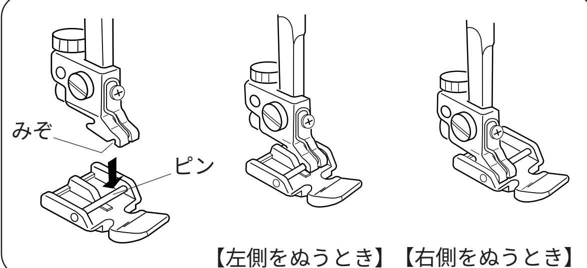
※指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

●ファスナーつけ



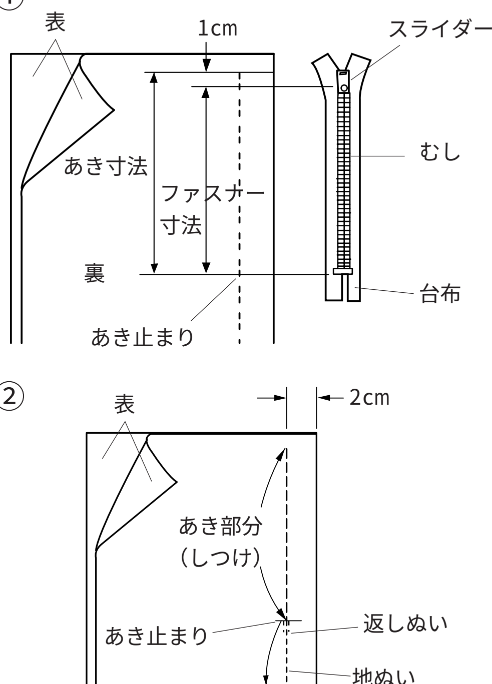
※ファスナー押さえを使用するときは、必ず直線模様０１（針落ち中）を使用し、はずみ車を手でまわして、針が押さえに当たらないことを確認してください。

【ファスナー押さえのつけ方】



◎左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
◎右側をぬうときは、左側にセットします。

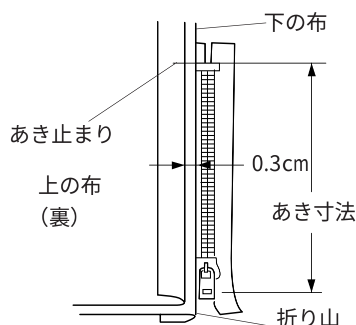
【準備】例：左脇あきのぬい方



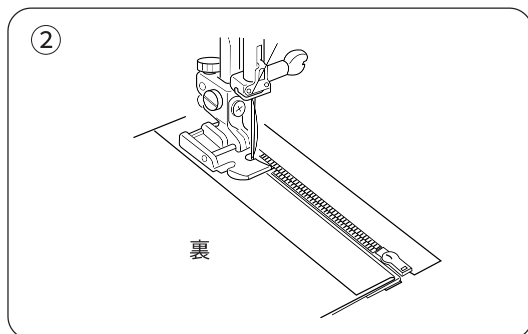
【ファスナーのあき寸法を確かめます。】
①あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

【仮ぬいのしつけと地ぬいをします。】
②布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、ぬい目の長さ 5.0 でしつけぬいをします。
※しつけは、ほどきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

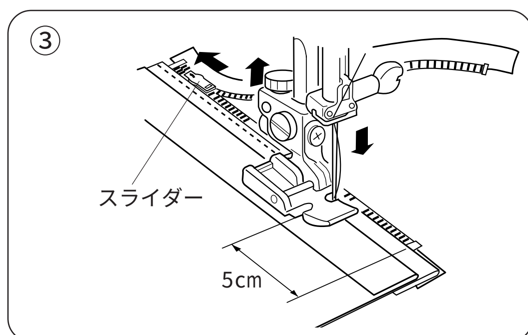
【ぬい】



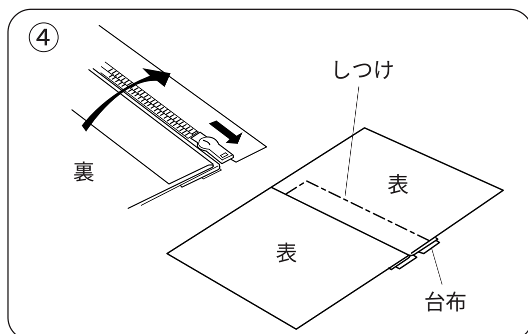
①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



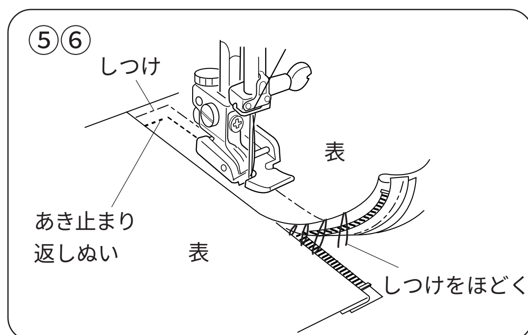
②押さえホルダーを押えの右側にセットして、むしのきわに押さえの端を当てて、 あき止まりからぬいます。



③ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

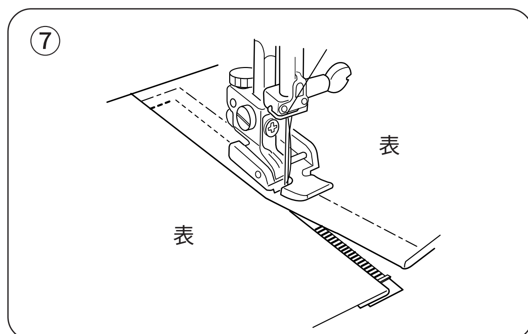


④ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。



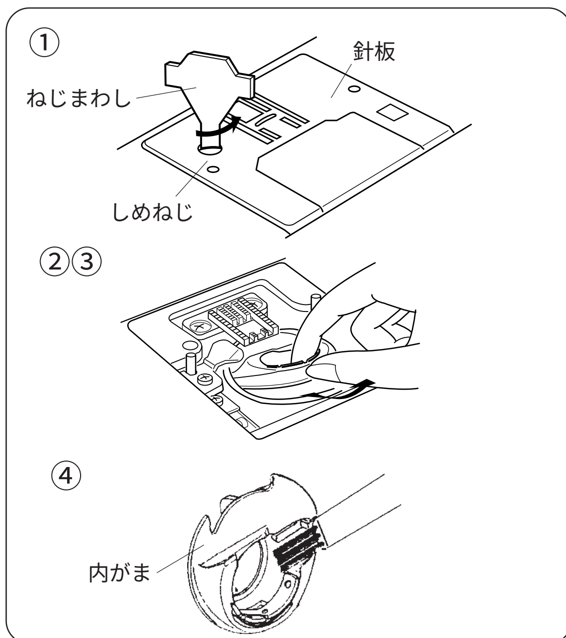
⑤押さえホルダーをファスナー押えの左側にセットします。
上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端を当ててぬいます。

⑥ファスナーの上側を5cmくらい残したところでとめ、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。



⑦スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

●ミシンの手入れ



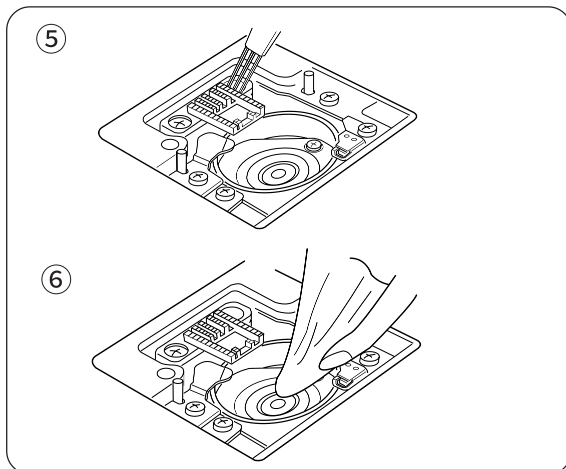


※手入れのときには、上下停針ボタンを押して針をあげてから、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
※このミシンは、注油の必要がありません。

◎使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。

★かまの分解

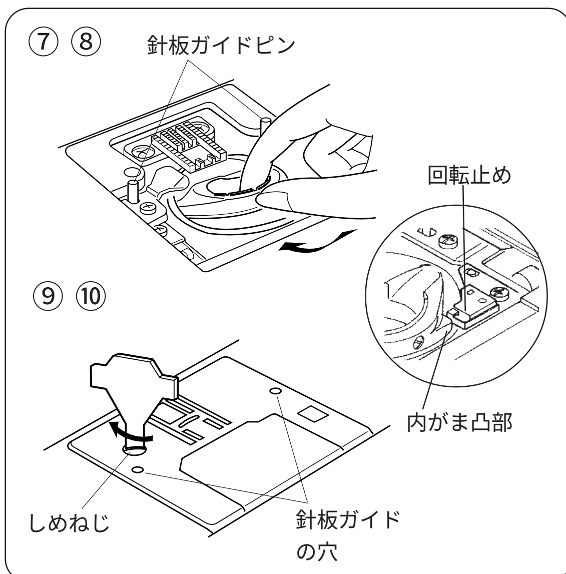
①針と押さえをはずします。
②しめねじをはずし、針板をはずします。
③ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。
④内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。



★かまと送り歯の掃除

⑤送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。
⑥外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。



★かまの組みつけ

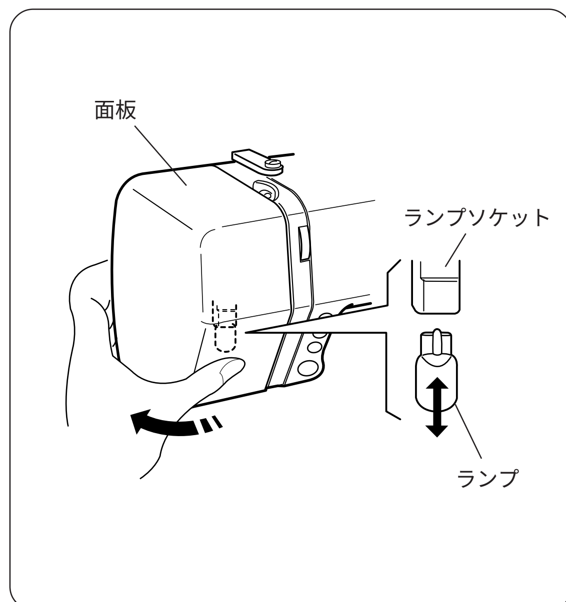
⑦内がまをさしこみます。
⑧内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
⑨ボビンを入れ、2 箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、針板を取りつけます。
⑩しめねじをしめます。

※手入れが終わったら、忘れずに針と押さえをつけてください。

●ランプのとりかえ方



※ランプをとりかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
※ランプは冷えてからはずしてください。



《はずし方》
①面板を開きます。
②ランプをそっと引き抜きます。

《つけ方》
①ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
②面板をしめます。

※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。
ランプ品番は、000026002（12V、5W)です。
定格の異なるランプは、とりつけないでください。

●こんな表示が出た場合

警告音とともに下記の表示があった場合、1.5秒間表示されます。下記の対処方法にしたがってください。

表　示	対　処　方　法
Fc	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート・ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート・ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続をはずしてください。 2. ぬい中にフットコントローラーのプラグをさしこんだり、はずしたりした場合にも表示され、ミシンモータが停止します。 プラグの抜きさしは、電源を切ってから行ってください。
Lo	安全装置の作動により、ミシンモータが１５秒間緊急停止しているときにボタンを押すと表示されます。しばらくおまちください。 糸がらみ等があった場合には、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。
bL	ボタンホール切替えレバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、表示されます。ボタンホール切替えレバーを引きさげて、再スタートします。
UP	ボタンホールをぬった後に、押さえ上げをさげたまま、他の模様を選択しようとした場合に表示されます。 押さえ上げをあげ、ボタンホール押さえをはずしてから模様を選んでください。 安全の為、ボタンホール押さえのまま、他の模様をぬわないでください。
SP	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに（　　）、表示されます。 ※糸巻き軸をもとの位置に戻すまで、表示されます。
dn	押さえ上げをあげたままで、スタート・ストップボタンを押したときに表示されます。押さえ上げをさげてからスタート・ストップボタンを押してください。
E1 等	電源投入時に表示された場合、ミシンが故障しています。 お買上げ店へご連絡ください。

★ブザー音の種類

ブザー音	内　　容
ピッ	正しい操作をした場合の受付音です。
ピピピッ	不正な操作をした場合の禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。または、糸調子皿から上糸がはずれている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4．針のつけ方がまちがっている。 5．ぬいはじめに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	10 ページ参照 16 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 13 ページ参照 13 ページ参照 19 ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4．下糸がゆるく巻かれている。	8、9 ページ参照 40ページ参照 ボビンを交換する。 巻く速度をはやくする。
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬいおわったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。 5．模様に合った押さえを使用していない。	19 ページ参照 19 ページ参照 13 ページ参照 19 ページ参照 押さえを交換する。
ぬい目がとぶ。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸の掛け方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	19 ページ参照 19 ページ参照 19 ページ参照 10 ページ参照 針を交換する。
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 ＊特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあてててぬってください。	16 ページ参照 8、9、10ページ参照 19 ページ参照 ぬい目を細かくする。
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	40 ページ参照 ぬい目をあらくする。 17 ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	16 ページ参照 19 ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目の長さが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	26ページ参照 芯地を貼る。
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．コントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	5 ページ参照 40ページ参照 8ページ参照 5 ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	40ページ参照 40ページ参照

※静かな部屋で使うと、「ウイーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

♥ MEMO ♥

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。

●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。

●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住　所　〒193-0941　東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室　0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
042 － 661 － 2600
受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕	様
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	50W/ ランプ 5W
外形寸法	幅 39cmX 奥行 18cmX 高さ 28cm
質　　量	8.3kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
縫速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時（毎分 820 針）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。